

# e-Japanologyの構築にむけて

東京外国語大学 佐野洋

2010年12月11日

# e-Japanology事業

---

- キーワード
  - 知識資本主義(ハードパワーからソフトパワー)の時代
  - 日本学知の資源化、メディア・テクノロジー戦略(知識の流れをコントロール)
  - 日本学研究教育組織への技術支援、多言語アクセシビリティ
- 概要
  - メディアの地殻変動(情報通信の技術革新)と、グローバル化に対応しうる自国文化の発信のため、多言語アクセスに対応した日本学の学術コミュニティ基盤を構築し、多摩地区の日本学研究教育組織に加え、外国人留学生コミュニティを活用して、日本学知識ベースの構築-蓄積-参照-資源累加の循環システムを実現する。

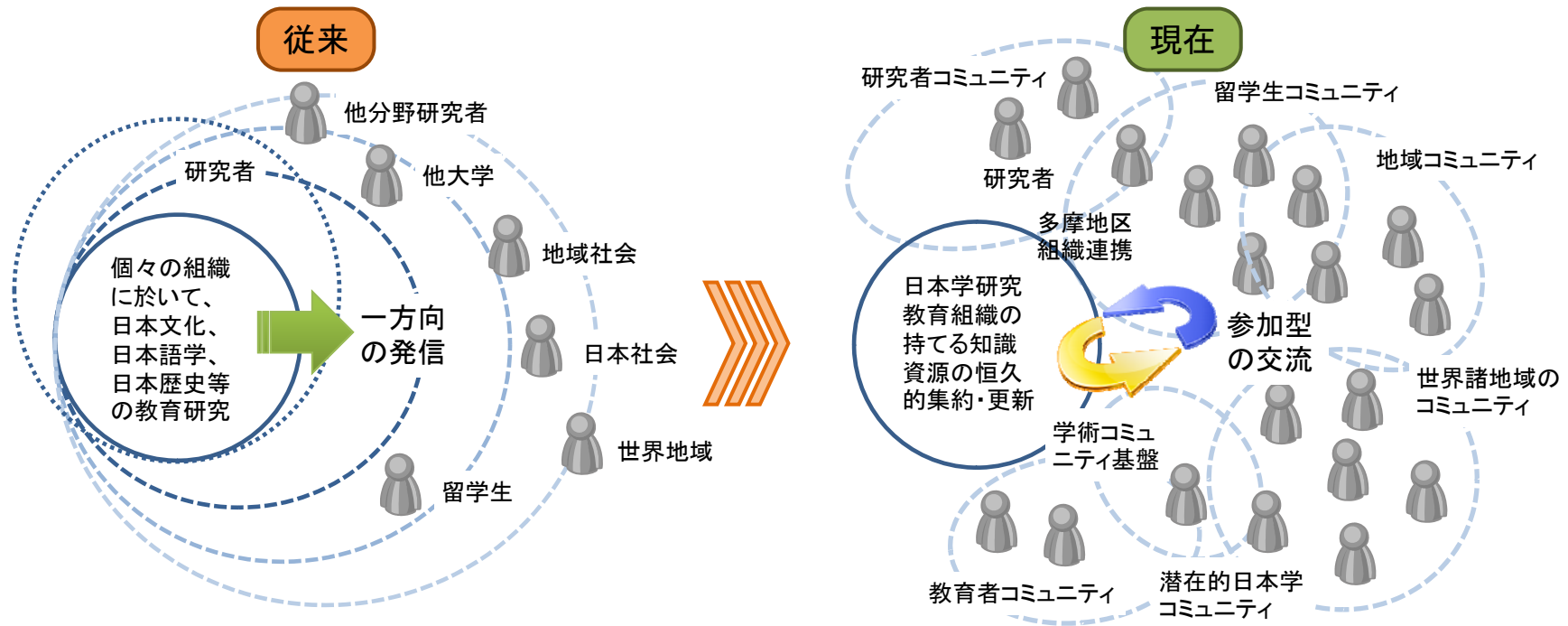
# 実施の課題

---

- 実施主体(?)
  - 多摩地区の日本学研究教育組織、及び情報技術基盤支援組織
  - NII(大学等の教育研究機関の枠を超えた連携サービスの提供主体)
- 計画期間(?)
  - (一連のシンポジウム(農工大、外大)でキックオフ)
- 規模
  - (要検討)
- 目的
  - 多摩地区の日本学研究教育組織の持てる知識資源を恒久的に集約・更新でき、且つグローバルに日本学知へのアクセシビリティを強化した仕組みを構築することで、日本学教育研究での価値創造を支援する。同時に世界における日本文化のプレゼンスを向上する。

# 実施の背景

## グローバル化にともなう日本学の学術機能の進化



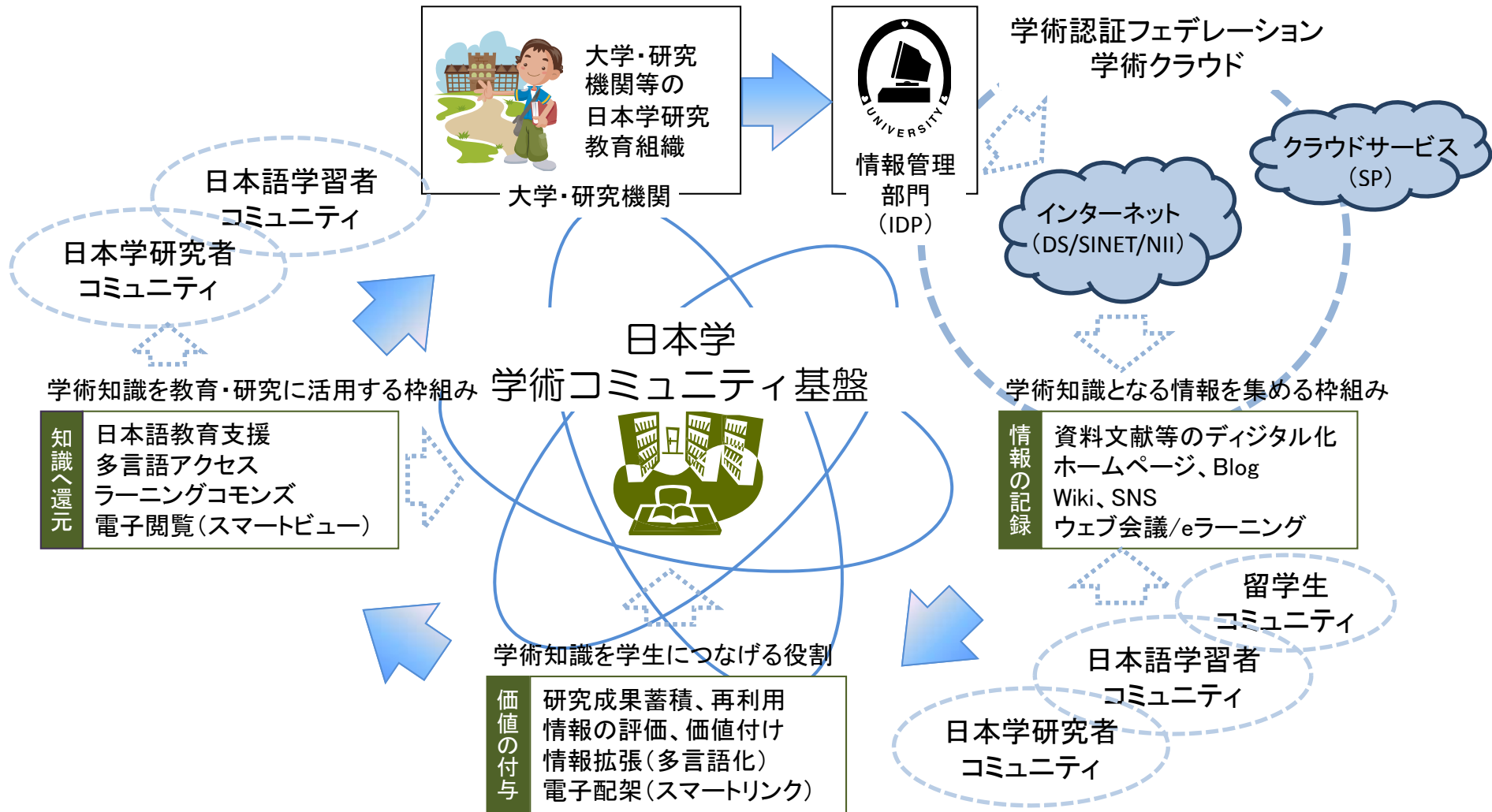
- メディアの地殻変動に対応しうる学術基盤の構築  
(日本学の教育研究機動力の強化(学術研究基盤))
- 日本学知へのアクセス向上(海外を含む活用者の必要性に沿った手段の提供)  
(知識アクセスの物理的・時間的、且つ学術分類制約の解消(学術認証フェデレーション))
- 日本文化価値の創出と教育支援(知的財産としての著作権、商標の活用)  
(日本学知の情報化と情報の評価、知識の資源化(学術コミュニティ基盤))

日本学知の循環

e-Japanology構想  
(先端技術(クラウドサービス、  
学術認証等)を活用した学術  
基盤)

# e-Japanologyと日本学の循環

ネットワーク時代の参加型の交流推進、情報価値の創出



# 日本学のための情報発信サイトの構築

## 利用者から見たe-Japanologyサイトの概念図

